

◆ワークショップ「き」組が【超長期住宅先導的モデル事業】200年住宅ビジョンに選ばれました

【超長期住宅先導的モデル事業】とは

日本は今、地球温暖化問題や、ゆとりある社会への転換を求め、住宅政策の大規模な見直しが図られています。そこで、高度経済成長期に広まった、つくっては壊すフロー型消費の考え方を一新し、定期的にリフォームを繰り返しながら、世代を超えて200年住める家を作るストック型社会を目指すために「超長期住宅先導的モデル事業」が立ち上げられました。

【200年住宅ビジョン】とは

「200年住宅ビジョン」と呼ばれるこの事業は、「いいものをつくってきちんと手入れして長く大切に使う」というストック社会のあり方について広く国民に提示し、技術の進展に資するモデル事業を、国が公募し、建設工事費等の一部を補助するものです。

【ワークショップ「き」組の家】の応募理念

ワークショップ「き」組では、日頃から実践している以下の8つの理念に基づいて、応募しました。

- ①伝統的木組による丈夫な長寿命の家づくり
- ②生活の変化に対応する木組の架構体づくり
- ③日本の気候風土に根差した木組の家づくり
- ④山と職人を結ぶ木組の家づくり
- ⑤循環社会を実現する自然素材の家づくり
- ⑥伝統構法と新技術を融合した木組の家づくり
- ⑦各地の実践者と連携し技術を広め伝える木組の家づくり
- ⑧日本の町並みをつくる木組の家づくり



キューブタイプ



リニアタイプ

【選定理由】

その結果「多様な取り組みを行なうことと合わせ、伝統的な木組みの技術の継承や山の育成へ寄与する取り組みも評価した。」という講評を得て、選定されました。これも私達の取り組みを支持していただいた、みなさまのおかげです。ありがとうございました。



【これからの実践】

これからワークショップ「き」組で家を作る数棟に、国土交通省の補助金が下りる予定です。

そのためには、新たな性能規定の壁を越えながら、施工する必要となってきますが、山と職人の智慧を集めて乗り越えていきたいと思えます。

ワークショップ「き」組の家は、超長寿命の仕組みをもつ日本の伝統的な木組の家としてさらに進化します。

今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

COMINET
LIVE

Communication Network for Live

2008 冬 no. 46

株式会社

松井郁夫建築設計事務所
まちづくりデザイン室
165-0023
東京都中野区江原町1-46-12-102/203
TEL 03-3951-0703 FAX 03-5996-1370
URL: <http://matsui-ikuo.jp>
e-mail: ok@matsui-ikuo.jp



ごあいさつ

今年もあとなわずか、
年毎に一年が過ぎるのが、早くなる気がします。
みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

今回は特集を2題お届けします

特集・1

国土交通省が進める超長期住宅先導的モデル事業【200年住宅ビジョン】にワークショップ「き」組の家の取り組みが選ばれました。

選定理由は「多様な取り組みを行なうことと合わせ、伝統的な木組みの技術の継承や山の育成へ寄与する取り組みも評価した。」という概評でした。

今後のワークショップ「き」組の活動に対して、応募数分の補助金が国土交通省から下りる予定です。

特集・2

奥美濃と越前を結ぶ要所、白鳥に「越美文化研究所」が竣工しました。岐阜県を流れる長良川の源流が望める絶好の地に、出港する船のような建物が建ちました。

今後は財団として地域の歴史の発掘や、民家の保存のために活動します。元NHKプロデューサーの水谷慶一氏の住宅兼研究所です。これからの活動に期待します。





越美文化研究所が完成しました

日本文化の源流を、奥美濃と越の国境に求めて、歴史と文化を発信する基地が、岐阜白鳥の地に完成しました。「越美文化研究所」は、今まさに情報の海に漕ぎ出さんとする1艘の船です。船長は水谷慶一氏。NHKの歴史を築いた往年の名プロデューサーです。

これからは白鳥の地であって、美濃の国はもちろん遠くは韓国中国大陸まで、さらに広く深く航海します。まずは、多くの方々の支持を集めて財団化に向けて、船出です。皆様のご支援よろしくお願い致します。

意義深い建設の仕事にかかわれたことに感謝し、苦難の仕事とともに担っていただいた澤崎建設のみなさんや、羅針盤となって働いていただいた原貴亮氏やその家族の人々に感謝します。

今後とも活動の力の継続をよろしくお願いいたします。

越美文化研究所 木造平屋建て 住居兼研究所

所在地 — 岐阜県郡上市白鳥町 構造材 — 地元の杉、松、松丸太
 家族構成 — 夫婦二人 断熱材 — フォレストボード
 建築面積 — 158.65㎡(47.99坪) 施工 — 澤崎建設
 延床面積 — 203.21㎡(61.47坪) (ロフト・デッキ含む) 設計 — 松井郁夫建築設計事務所



▲ 外観(上・左下・下)
 懸け造りの外観。地域の人々と交流を図るデッキ(大庁)のある入り口。デッキからは長良川と山並みが見える。16間×3間の長さの建物はサワラ板張り。自然石の記名塔はのぼりを立てて季節を祝う。
 玄関(右)
 スリット窓から入る光は、玄関の正面を飾る泰山刻字を際立たせます。
 居間・松梁(右下)
 原貴亮さんの山から切った松の木は、瓜皮に剥きました。居間を貫通して台所に続きます。
 (写真: 奈良岡忠、松井事務所)

